

# お 祭 り

【中学年 1・1】

## - 日常体験と重ね合わせ、道徳的価値に迫る指導 -

(1)主題名 節度ある生活をする [1・1]

(2)ねらい 節度を大切にして生活する心情を養う。

(3)資料名 「お祭り」

(4)授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 祭りで楽しみなことを発表し合う。	<p>お祭りに行って、楽しみなことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太鼓</li> <li>・ゆかたを着る</li> <li>・夜店</li> </ul>	祭りがイメージしやすいように音楽を流したり、地域の祭りの写真を提示したりする。
展開	2 資料を聞き、話し合う。	<p>お祭りの会場で店がならんでいるのを見たなおやは、どんな気持ちでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しいな。</li> <li>・こづかいはたくさんあるぞ。何につかおうかな。</li> </ul> <p>なおやはどんな気持ちでくじを引いているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ようし、もう1回やるぞ。</li> <li>・今度こそあてるぞ。</li> <li>・1等があたつたらいいな。</li> <li>・むだづかいになるからやめようかな。</li> </ul>	祭りを楽しみにしているなおやの気持ちを考えさせる。
開拓	3 なおやの気持ちに迫る。	<p>残った100円をにぎりしめているなおやの気持ちを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しまった、むだづかいをしてしまった。</li> <li>・お母さんの言葉が気になるな。</li> <li>・年に1度のことだからいいや。</li> <li>・おばあちゃんは悲しむかな。</li> </ul>	祭りの楽しみ方にもふれ、くじ引きそのものを否定せず、節度のある遊び方をしていく必要があることに気付かせる。 祭り独特の楽しさを受け入れた上で、節度について考えさせる。
総括	4 自分の生活を振り返る。	<p>このお話と似たような経験はありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームに夢中になり、宿題をするのが遅くなった。</li> <li>・遅くまで友だちと遊んでいて、家族に心配をかけた。</li> </ul>	自分の経験を振り返る中で、価値の内面化を図る。
終末	5 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えながら楽しむことが大切だ。</li> </ul>	節度をもって行動した時の気持ちのよさを伝える。

## お 祭り

今日は、なおやの町のお祭りだ。仲良しのけいたと待ち合ながよ

わせをしている。「行つてきます。」

「なおや、車に気をつけてね。むだづかいをせんのんよ。」

「はい、はい」調子にのらずに、楽しんでおいでのよ。」

「はい、はい、わかつてます。」

何なに母のはの心配する声も耳にはいらず、にぎりしめたおこづかいをに使つかうかと考かんがえて外に出た。なおやは、お母さんから五百円、おばあちゃんから五百円をもらつてきている。けいたと会流し、祭りへとむかつた。会場は店がぎつりとならび、楽しそうなかけ声と太鼓の音でにぎわつている。なおやの目に一番に入つたのがくじ引きの店だ。豪華な賞品が並んでいる。（あつ、ぼくのほしかつたゲームがある）なおやはすぐに三百円のくじを引いた。

「ようし、あたれ！」

「はずれ、残念、あめ玉だ。」

「ようし、今度こそ。」

「おお、やつたな。四等があたつたぞ。」

「えつ、四等。さつきよりいいぞ。ようし、こうなつたら、三度目の正直だ。」

「おい、もう一回もしたんだ、むだづかいだ、やめとけよ。」

けいたが、あわてて言つた。いいや、きつとあたる、あと一回だけ・・・

「はずれ。はい、あめ玉だ。」

なんと、お祭りに来て十分もたたないうちに、こづかいのほとんどをつかつてしまつた。しばらくは祭りの会場を歩いたものの、なおやは、何ひとつ楽しいとはおもえなかつた。手には、残つた百円をにぎりしめていた。

# 活用に生かすための実践報告

## 「お祭り」

### 1 主題の設定

- ・本資料を通して、祭り独特の楽しい雰囲気を味わい、夜店での買い物などのお金の使い方について考えさせたい。特に「自分の物はどのように使ってもよい。」「人に迷惑をかけなければよい。」といった自己中心的な考えについては、おこづかいとはいえ、よく考えて計画的に使うことが必要であることに気付かせ、お金の使い方を通して「節度のある生活」について考えさせたい。
- ・地域の祭りやお金を使う機会の多い、夏休みや冬休みの前に、学級活動との関連を考慮して指導することが効果的である。

### 2 指導過程の工夫

- ・2回目に4等が当たり、3回目のくじ引きをする時の迷いを考える。児童は、「やめようか」と迷うが、賞品につられて3回目をすると判断する児童がいる。「しまった！」と後悔する前に、よく考え、調子にのらず生活していくことが大切であることを主眼として指導過程を作成した。

### 3 発問の工夫

- ・導入や展開前段の発問は、祭りの楽しい雰囲気がでるようにする。
- ・展開後段では、祭りや楽しいことを否定するのではなく、調子にのりすぎず、節度あるふるまいをしていくことが大切であることに気付かせたい。

### 4 児童の反応（授業後の感想）

#### （夜店をまわっている時の気持ち）

- ・楽しそうだな。何にお金を使おうかな。
- ・いろんな店がある。どこからまわろうかな。
- ・今日はおこづかいをたくさんもらったからうれしいな。

#### （残った百円をにぎりしめた時の気持ち）

- ・3回もするんじゃなかった。
- ・お母さんの言う事が守れなくて反省している。
- ・くじ引きをほどほどにしておけばよかったです。
- ・けいたがとめてくれた時にやめておけばよかったなあ。

#### （児童の考え）

- ・なおやの気持ちがよく分かる。自分も経験があるので気を付けたい。
- ・けいたが言ったように、友だちの意見を聞いた方がいいと思った。
- ・「後悔先に立たず」という意味がよく分かった。
- ・計画を立てて、ほどほどにして、やりすぎない方がいいと思った。
- ・ほしいな、いいなと思った時、全く行動が止められなくなりこわいと思った。

### 5 実践者からの一言

- ・児童は、日常の体験と重ね合わせ、よく考えていた。
- ・発言の中から、「ほどほど」、「後悔」などポイントとなる言葉を取り上げ、「節度」の言葉とつなげ、考えさせたい。

（幟町小学校 田中雅美）